第一章　この本を書く問題意識
〝声かけ〟への違和感
〝声かけ〟のしかた？
〝声かけ〟が過剰ではないか
〝傾聴〟の限界
介護現場での〝傾聴〟の限界
介護の世界のストーカー
ケアに『ケースワークの原則』が通用するか
〈意味だらけの世界〉になっていないか？
〈老人の自己決定〉という言い訳
〈自己決定〉より〈共同決定〉
〈自己決定〉の呪縛から解放されること
『ケースワークの原則』を読んでみるⅠ
〈受容〉より〈相性〉
『ケースワークの原則』を読んでみるⅡ
『ケースワークの原則』を読んでみるⅢ
介護の強みとは
これまでの整理をしてみようⅠ　〈よい関係〉
これまでの整理をしてみようⅡ　〈生活の中の開かれた関係〉
〈回想法〉より〈回想〉を

第二章　コミュニケーションはもう始まっている
「べてるの家」で起きていること
問題行動の本当の意味
内コミュニケーション
〈周辺症状〉より〈人生〉
見ているのは周辺症状か、それとも人生か
森田仁之介さんの年表
〝上品なお婆さん〟が入所してきた
リハビリテーションよりコミュニケーション
コミュニケーションを拒否するＴさん
Ｔさんが元気になった二つの理由
〈科学〉がコミュニケーションを疎外する
何がコミュニケーションを回復させるのか
共感的世界
介護の専門性における間違った捉え方

第三章　まず自分とのコミュニケーションを
なぜ専門家ほどコミュニケーションが下手なのか

専門家のコトバ、生活者のコトバ
老いは、快・不快の原則に還る
自分の中の〈基礎〉とコミュニケートする
コミュニケーションのうまい人
老人の〈基礎〉に関わる〈母性〉
同一性と非同一性〜アドルノを読む
セコいアイデンティティ
ほんとのアイデンティティ
哲学者バタイユの介護体験
人々が目をそらしているもの
文化人類学から見た認知症老人の世界
〈異文化〉という思想
〈異文化〉を探るⅠ　『グアヤキ年代記』を読み解く
〈異文化〉を探るⅡ　『ピダハン』を読み解く
日本の中の〈異文化〉
インドに学ぶ
私たちは、カースト制度を批判できるか
認知症老人が見る景色

第四章　コミュニケーションが成立する条件をつくる
〈気違い〉のほんとうの意味
幻覚・妄想が消える、ユニークな方法
〈気が違う〉ということ
介護家族の立場
〈気〉を変える現場の力
気を変える方法Ⅰ　自分たちの介護を対象化する
気を変える方法Ⅱ　想像力
気を変える方法Ⅲ　妄想力
気を変える方法Ⅳ　おばさん力
気を変える方法Ⅴ　ピダハン力とスケベ力
旅からの回帰〜ある絵本との出会い